



## 今年を振り返って

今年度、当センターで計画している指導者の養成・研修事業は残すところ1事業（「家庭教育・子育て相談担当者研修会Ⅱ」2月15日）のみとなりました。各市町村、関係機関・団体の皆様からご理解とご協力をいただき、お陰様をもちまして事業推進することができました。心より御礼申し上げます。来年2月には「岩手県生涯学習推進研究発表会」を開催します。新型コロナウイルス感染症対策の観点から当センターでの集合型に加えWeb視聴を併せての開催です。皆様の参加をお待ちしています。

さて、師走を迎え、今年も残りわずかとなりました。4月からこれまでを振り返ってみます。

今年に入り、1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染者が確認され、その後、全国各地に広がりを見せました。4月7日には新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき政府が「緊急事態宣言」を発出し、同16日にはその宣言が全国に拡大され、5月6日までの期間となりました。そのことを受けて、4月10日、今年度の指導者養成・研修事業で依頼済みの県外講師の招聘を断念することとしました。4月20日には他の都道府県の感染拡大状況を鑑み、7月1日までの7事業の延期を決め、市町村、関係機関等に周知を行いました。

4月24日、県教委から在宅勤務の実施通知が発出され、同30日から実施されました。その間、以下2つのことが可能であるか検証することにしました。

- ① Zoom（アプリ）等による講師及び受講者の双方向でのやり取りをすること
- ② 研修動画を収録等により配信をすること

①については可能でしたがセキュリティ上の問題及び受講者が一定数を超えることで有料になるという課題が、②については講師からの許諾により動画を収録しYouTubeで配信することが可能であることが確認でき、②の形態で実施することにしました。在宅勤務中に「広報スキルアップ研修講座Web版」の収録、配信準備を行い、6月1～12日に配信することができました。また、5月14～15日実施予定の「新任生涯学習

岩手県立生涯学習推進センター情報

令和2年 12月 28日 発行

No.106

# まなびネットいわて

関係職員研修講座」は、講師先生を当センターにお招きして収録、受講者のみに配信用のアドレスを交付して6月29日～7月3日に配信することができました。受講者から「好きな時間に研修を受けることができる」「他の受講者や講師に気を遣うことなくマイペースで学習を進められる」「移動がなく時間も無駄にならない」というメリットがあげられました。

当センター等を会場とする研修事業のリスタートに向けては「研修講座実施に係る新型コロナウイルス感染症対策実施基本方針」（内部資料）を策定し、それに基づき対策を講じて研修事業を実施することとしました。厚生労働省、文部科学省、公益社団法人全国公民館連合会等から出されている方針やガイドラインを参考に作成しました。方針には開催案内の時期、実施可否の判断基準、中止の基準に達した場合の対応、定員、募集・抽選に係る事項等を盛り込みました。特に定員は密を避けるため会場定員の2～4分の1程度の人数と設定しました。

延期した7事業と7月1日以降に計画していた事業の期日や講師の変更等については、6月8日までに調整を行い、6月12日、当センターホームページに掲載して、外部向けアナウンスを開始しました。

7月10日、当センターで実施した「人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（中部地区）」を皮切りに同14日「放課後子ども総合プラン指導者合同研修会①」、7月15日から3日間の「広報スキルアップ研修講座①」と順調な滑り出しを見せました。しかしながら、7月30日、宮古市で開催予定であった「人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（宮古地区）」は、前日に開催地区から感染者が確認されたことを受け急遽中止としました。この研修は後日、依頼した講師先生をお招きして収録を行い、Web配信での研修会に変更して実施しました。この他にも予定していた会場と同じ建物内での感染者が確認されたことにより、前日に会場変更をしたこともありました。

4月から先行き不透明な状況で、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながら、職員の総力をあげて臨機応変に対応してまいりました。今後も受講者の皆様の安全を第一に考え研修事業を推進してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

来年は穏やかな一年になることを祈っております。

# 岩手県生涯学習推進研究発表会

～岩手の人づくり・つながりづくり

・地域づくりフォーラム 2020～

**【2月4日（木）】 13:45 ～ 15:45**

★【研究発表】 当センターの今年度の研究成果を発表します。

(1) 障がい者の生涯学習推進のあり方に関する研究

※障がいのある方もない方も共に学べる生涯学習のあり方について探ります。

(2) 地域づくりにおける社会教育の意義に関する研究

※市町村の人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた社会教育のあり方について探ります。

**【2月5日（金）】 9:40 ～ 12:00**

★【事例発表・協議】「岩手の地域づくりを考える」

① NPO法人古館まちづくりの会 調査・改善部門 代表 佐々木 勉 氏

② NPO法人レスパイトハウス・ハンズ理事 兼 いちのせき市民活動センター長 小野寺 浩 樹 氏

③ 花巻市人材マネジメント部会 OB組織 代表 佐々木 明 子 氏

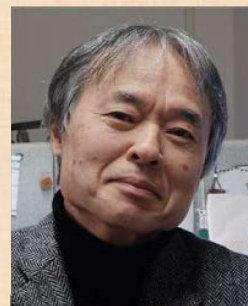
**【2月5日（金）】 13:00 ～ 15:00**

★【講演】「人口減少時代の地域づくり」

講師 NPO法人いわて地域づくり支援センター理事長  
岩手大学 名誉教授 広 田 純 一 氏

〔講師紹介〕

1954年東京生まれ。1983年東京大学大学院博士課程修了、1985年から岩手大学、2020年定年退職。2005年に（特非）いわて地域づくり支援センターを立ち上げ、岩手県内外の数多くの地域づくり支援に取り組む。東日本大震災後は、国・県・市町村の復興構想・復興計画の策定に関わるほか、被災地の復興まちづくり・コミュニティ再生を手がける。現在、農水省世界農業遺産専門委員会、国交省国土管理検討委員会、環境省自然環境保全部会、文化庁重要文化的景観委員会の委員等。



日時

令和3年

**2月4日（木） 13:30～15:45**

**2月5日（金） 9:40～15:00**

会場

岩手県立生涯学習推進センター

〒025-0301 花巻市北湯口2-82-13 TEL 0198-27-4555

※参加申し込みについては要項をご覧ください。  
※お問い合わせは生涯学習推進センター（上記）までどうぞ

# 岩手県生涯学習推進研究発表会ライブ配信

今年度の発表会は新型コロナウイルス感染症対策のため、発表会と同時にライブ配信を行うことで、多くの方々に参加していただくことといたしました。

## ライブ配信への参加のしかた

1. 発表会参加申込書にメールアドレスを記入した上で申込
2. 申込書のメールアドレス宛に発表会のページ（下記のようなページ）のURLを送付
3. 発表会のページから該当の発表をクリックすると、YouTubeの配信ページが開いて視聴できる

**令和2年度生涯学習推進研究会**

◎ライブ配信

下記の画像又は文字をクリックして、YouTubeのページに移動してください。

令和3年2月4日(木) 午後 13:30~15:45	・開会行事 13:30~ ・研究発表① 13:45~ 「度がい者の生涯学習推進のあり方に関する研究」 ・研究発表② 14:25~ 「地域づくりにおける社会教育の意義に関する研究」 ・研究協議 15:15~
令和3年2月5日(金) 午前 9:40~12:00	・事例発表① 09:40~ ・事例発表② 10:10~ ・事例発表③ 10:40~ ・協議 11:20~
令和3年2月5日(金) 午後 13:00~15:00	・講演 13:00~ 「人口減少時代の地域づくり」 講師 NPO法人いわて地域づくり支援センター理事 岩手大学名誉教授 広田 純一 氏

◎研学会資料

資料は、事前に印刷して、お届きください。

- ・しおり
- ・研究発表①「度がい者の生涯学習推進のあり方に関する研究」【研発表】
- ・研究発表②「地域づくりにおける社会教育の意義に関する研究」【研発表】
- ・事例発表① 古釜まちづくりの会
- ・事例発表② いちのせき市民活動センター
- ・事例発表③ 花巻市人材マネジメント研究会 OB相澤
- ・講演「人口減少時代の地域づくり」

◎アンケート

アンケートは、下記よりアクセスし、ご回答ください。

アンケート

御覧になる発表をクリックするとYouTubeの該当動画が開きます。

YouTubeのページ（イメージ）

各発表資料のpdfファイルがダウンロードできます。印刷するなどして御利用ください。

御視聴後、アンケートに御協力をお願いします。（個人を特定するような内容ではありません）

### ご視聴にあたっての注意

- ・ライブ配信は限定配信をします。YouTube上で検索しても表示されません。
- ・発表のスライドは文字が小さいものもあります。パソコンなど、画面の大きな装置での視聴をおすすめします。
- ・高画質の動画が視聴できる通信環境かどうか事前に御確認ください。

大槌町教育委員会から、特色ある事業について寄稿いただきました。

大槌町教育委員会では、被災から再生を続ける街の「ふるさと」としてのアイデンティティーを確立させるべく、コロナ禍ではありますが主に以下のような事業を実施しました。

## 1 文化財指定

### (1) 郷土芸能

臼澤鹿子踊・吉里吉里鹿子踊・吉里吉里大神楽の3件を町無形民俗文化財に指定しました。本年はお祭りをはじめとした披露の機会がない年になってしまいましたが、その中でもみなさんの目に触れる機会を持てるよう、郷土芸能で用いる衣装・獅子頭の展示を図書館企画で行いました。来場された方々と共に、コロナ終息後に威勢よく踊る姿に思いを馳せました。



### (2) 前川家文書

江戸時代中後期に大槌町で全盛を誇った商人、前川善兵衛（前川家）に関する文書資料を町有形文化財に指定しました。津波による被害を受けましたが、岩手県立博物館をはじめとする文化財レスキューの修復を経て今年、町に戻ってきました。当時の繁栄を物語るこれらの文書は、来年（2021年）2月に町民をはじめとしたみなさんに公開する機会を設ける予定です。

## 2 ふるさと大槌学講座

約20年前から町の文化・歴史を広く周知するため実施している講座で、今回で19回目の開催となりました。町内に残る被災した神仏具



から読み解く、大槌町の江戸時代の繁栄をテーマに、文化財調査をされている方を講師に呼びその貴重性を話していただきました。参加者からは「こんなに凄いものが町に残っているなんて知らなかった…」と評判は上々。今後、教育委員会としてもこれらの重要性を何らかの形で表現していきたいと考えています。

## 3 リモートによる講座実施

コロナ禍で単に中止するのではなく、web会議サービス「ZOOM」を活用したリモート講座を行いました。実施形式が変わることで受講児童生徒の集中力が保てるか懸念もありましたが、かえって熱心に取り組む姿勢がみられ有意義であったと感じます。

### (1) 命と性の学習



### (2) イトヨ授業



## 4 郷土財活用エリア整備

上述したイトヨ（トゲウオ目トゲウオ科）の生態は、町内に約200ヶ所存在する「湧水」の影響を色濃く受けています。大槌町では、そんな「湧水」を郷土財として捉え、今後も大切に保護していくべく復興事業として郷土財活用エリアを定め、来年4月を目途に整備を進めているところです。完成後のオープニングイベントを経て、この郷土財を活かした生態系の保護に地域の皆さまにもご理解いただき、共に育んでいければと考えております。